

第2回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	市営バス・南部バス 1 日共通乗車券（ハチカ）
担当課	政策推進課
目的	・1日に複数回移動する人や八戸市内が不慣れな観光客等に、安心感を持ってお得に路線バスを利用してもらう。
事業内容	・市営バス南部バスが運行する路線を大人（中学生以上）1日800円。子供（小学生）400円の乗り放題券を販売している。
現状と課題	・1 日共通乗車券の販売実績は 100 枚/月程度 ・1日共通乗車券の認知度が低いことやシステム上定期券を登載しているカードでは 1 日乗車券を買えないことが課題。 ・市内若者の人数(R7.3 現在) ⇒6～11 歳 9,936 人 ⇒12～14 歳 5,438 人 ⇒15～17 歳 5,710 人 ⇒18～21 歳 6,564 人 <u>合計 27,648 人</u> ・想定事業費(1 日無料とした場合) - 小学生 9,936 人×400 円＝3,974,400 円 - 中学生以上 17,712 人×800 円＝14,169,600 円＝18,144,000 円 <u>合計 22,118,400 円/日</u> ※仮に 1 か月実施すると約 6 億 6 千万円 ・乗り放題を実施するには、事業費が課題。
他都市の事例	○静岡県吹田市(中学生バス乗り放題事業) →中学校の統廃合を行ったエリアの約480名の中学生を対象にクラブ活動の移動や学校間交流、習い事や遊びも含め、バスを乗り放題にした。事業費 6,300 万円。 ○静岡県(県内小学生対象2日間バス無料デー) →県内約 17 万 8 千人の小学生にバスの乗り方や利便性を知ってもらうことを目的に2日間バス乗り放題。バス事業者の負担のため、自治体の負担はなし。 ○大阪府吹田市(市内小中学生バス乗車体験事業) →小・中学生に路線バスの乗車体験をとおして、日常の移動手段の選択肢として知ってもらうことで、路線バスの将来需要の拡大を図り、市内路線バスの利用促進を目的に実施。 →夏休み期間中に利用できる、2回分の1日乗り放題券の紙券を配布。小学生1枚 110 円、中学生 220 円で利用後に精算。人数、予算規模不明。

第2回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	<主な事業> (1)市地域スポーツ・文化活動検討協議会 (2)合同部活動及び合同スポーツ・文化芸術活動の運営
担当課	学校教育課
目的	(1)中学校部活動の円滑な地域移行に向けた新たなスポーツ・文化活動の環境の整備に関し、必要な事項について調査及び検討をする。 (2)休日の地域クラブ活動実施に向け課題を検証するとともに、複数の中学校による休日の地域連携を図る。
事業内容	<R6の実績> (1)市地域スポーツ・文化活動検討協議会 ①検討協議会(年4回開催)による協議 ②「八戸市中学校部活動の地域連携・地域移行に関するアンケート調査」の実施 対象:小学校5,6年生、中学校1,2年生 保護者、教職員 (2)合同部活動及び合同スポーツ・文化芸術活動 ①陸上競技 東運動公園陸上競技場・中学校の体育館において、合同練習を実施(計5回) ②美術・総合文化 是川縄文館、市美術館において、合掌土偶作成やドライポイントなど実施(計5回)
現状と課題	(1)R5からの第1期検討協議を終え、検討報告書が市教育委員会に提出された。R7から第2期の検討協議に入る予定であり、引き続き当市のスポーツ・文化活動の在り方について検討を進める。 (2)一定の成果と課題を得ることができた。R7は種目を拡大させるなど、更なる検証に取り組む。

第2回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	八戸市自動車運送事業
担当課	交通部運輸管理課
概況	・八戸市営バスは、市の公共交通機関として昭和7年10月1日の創業以来、90年以上の長きにわたり、通学、通勤、通院など、市民の足を守り続けている。
事業内容	・令和7年度 15路線96系統を111両で運行 (内訳 大型46台、中型65台) ・令和4年2月より八戸圏域地域連携ICカード「ハチカ」を導入
現状と課題	・少子化等に伴う人口減少によるバス利用者の減少に加え、コロナ禍の影響による移動需要の変化による、運送収益の減少 ・運行に欠かせないバスの燃料や資材などの価格高騰による運送に係る費用の増大 ・全国的な人手不足や2024年問題を背景とした運転士不足 ・乗務員の休息時間が継続8時間から継続9時間以上に変更されたことに対応するため、ハチカの乗降実績を参考に夜間ダイヤの効率化を図っている

第2回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	八戸市自家用有償旅客運送補助事業
担当課	政策推進課
目的	・市内の交通空白地域(バス停や駅から1キロ以上離れている)において、住民が主体的に地域住民の移動手段の確保を行う場合の支援を行う。
事業内容	・移動手段確保のための1地域 1,500 千円の補助 ・島守地域 ①運行区間:島守地区から是川団地 ②運行本数: - 毎日 朝・夕方 各 1 往復 - 月・金 午前・午後 各 1 往復 ③利用料金:1回 200 円(予約制) ④運転手等:地域住民 ・笹ノ沢地域(令和7年7月頃から実施予定) ①運行区域:笹ノ沢生活館周辺～八戸駅(西口) ②運行回数:週2回(火・金曜日)/1日4便 ③利用料金:1回 200 円 ④運転手等:福祉事業者
現状と課題	・市内で自家用有償旅客運送を実施している(実施予定含む)地域は、島守地域と笹ノ沢地域の2か所。 ・どの地域も運転手確保に課題がある。 ・既存の公共交通との重複をどう考えるかが課題となる。
他都市事例	・五所川原市の公共ライドシェア - 運行エリア:五所川原市金木地区 - 運行期間:2024 年 10 月 1 日～2025 年 1 月まで - 実施主体:五所川原市(商工会へ運行委託) - 目的:交通空白の解消 ・弘前市のライドシェア実証運行 - 運行エリア:弘前市内 - 運行時間:21 時～25 時 - 運行期間:11 月 1 日～1 月 31 日 (金、土、日、祝日、祝前日) - 実施主体:タクシー事業者 - 利用方法:タクシー配車アプリにより、配車依頼が可能

第2回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	はちのへ観光案内所運營業務
担当課	観光課
目的	国内外の旅行者等に対して、安心して旅行ができるよう八戸市周辺及び青森県内の観光情報・サービスを適切に提供する体制を整備するもの。
事業内容	八戸駅に降りた人が初めに案内を受けられる場所であり、八戸のみならず、十和田湖、下北や北三陸などへの広域的なエリアのゲートウェイとしてのインフォメーション機能、「はっち」及び中心街への案内機能も併せ持つ観光案内所。 ・八戸市周辺並びに青森県内の観光案内に関すること ・観光タクシー、公共交通機関の案内に関すること ・宿泊の案内に関すること
現状と課題	【現状】 ・開館期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日（12月31日休館日） ・開館時間：午前9時～午後7時 ・運営体制：開館時間は常時2名以上の案内スタッフを配置（常勤5名：英語対応可、パート1名：英語、中国語、韓国語対応可） ・委託業者：一般財団法人 VISIT はちのへ 【課題】 ・案内スタッフの人材不足